



HIRANO Miho

## 平野 美保 氏

## 【Profile】

2011年3月 教育発達科学研究科 博士課程後期課程満期退学。

2012年2月 博士号取得。

京都ノートルダム女子大学 人間文化学部 講師。

入学前は、司会・ナレーション業や、社会人に話し方を教える講師をしていました。講師をするうちに、教育について学ぶ必要性を感じて大学院に入学しました。キャリアコンサルタントの資格も持っており、職業・キャリア教育学を専門領域に選びました。

2012年取材

## 大学院ではどんなことを学びましたか？

ゼミでは、エリクソンの『ライフサイクル』など、教育学の基礎文献を何冊も購読しました。コツコツと文献を読み進め、知識の土台を築くことができました。

入学前は「話し方」や「コミュニケーション」を研究テーマにしようと考えていました。ところが、指導教員から「テーマが大きすぎる」と指摘され、問題意識が漠然としすぎていると気づいたのです。その後、研究の目的、対象、方法をひとつずつ整理し、「好印象を与える話し方を身に付けるプログラムの開発」がテーマになりました。プログラムの設計、実践、効果検証を何度も繰り返して、博士論文をまとめました。話し方を教えていた私にとって、それまでの経験を活かした研究ができたと思自負しています。

## 大学院に入学してよかったことを教えてください。

社会人から大学院に入学した私にとって、同じ境遇の社会人大学院生との出会いは貴重でした。自分と同じように仕事をしながら学ぶ仲間がいることは励みにもなりました。自分とは全く異なる仕事や業界のことをたくさん知ることもできました。研究だけでなく、仲間たちにも視野を広げてもらえたと思います。

## 現在の仕事について教えてください。

京都ノートルダム女子大学で「話し言葉」を教えています。スピーチ、コミュニケーション、日本語表現など、様々な「話す」ことを実践的に学習できる学科です。講義では、朗読を取り入れたり、発表会形式にしてみたり、学生が話し言葉を面白いと感じられる工夫を凝らしています。おとなしかった学生も、次第に生き生きと話すようになります。コミュニケーションに苦手意識を持っている人にも、話す楽しさを伝えていきたいです。

## 大学での経験は仕事で生かされていますか？

入学前から仕事で関わってきた“話し方”について探求し、その成果を学生に伝える場を得られたことは、この上なくありがたいことだと感じています。

一方で、様々な理論や研究手法を学ぶ中で、人に何かを教える怖さも知りました。理論や知識は、徹底した事実の検証から導き出されます。物事を語る際、教える側には常に慎重に根拠を示す姿勢が求められるのだと学びました。